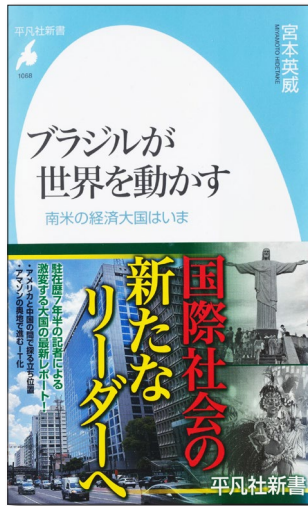




『ブラジルが世界を動かす』 ～南米の経済大国はいま～

宮本 英威 著

平凡社（平凡社新書）

2024/10 296p 1,210 円（税込）

序．多様性の国

- 1．【政治】 右派と左派の対立——大統領選とルラの復権
- 2．【外交】 国際社会の新秩序構築へ
——米中の中で立ち位置を模索
- 3．【環境】 熱帯雨林アマゾンの保護——国際交渉の最前線
- 4．【農業・産業】 世界の供給源
——コーヒーや鶏肉から飛行機まで
- 5．【デジタル・金融】 「国民総電子決済」へ
——PIX で狙う世界覇権
- 6．【日本との関係】 進む民間協力
——距離の壁越えパートナーに

終．未来の大国

【イントロダクション】

2024 年の 20 カ国・地域（G20）首脳会議の議長国を務め、成果文書となる宣言を異例の速さで発表し存在感を示したブラジル。25 年には BRICS、第 30 回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP30）の議長国となることも決まっている。巨大な国土と経済規模を有する南米の「大国」が、グローバルなリーダーシップを発揮しつつある。本書では、近年国際的な発言力を増すブラジルについて、政治や外交、環境政策、産業など幅広い分野の情報をまとめ、同国の最新事情や動向を伝えている。2023 年に誕生したルイス・イナシオ・ルラ・ダシルバ政権の下では、アマゾンの熱帯雨林を守る姿勢を強調し、気候変動問題に揺れる国際社会の関心を引いているという。また、金融面ではデジタル決済やネット銀行が台頭しており、「ヌーバンク」という世界的企業も誕生していることをレポートしている。著者は日本経済新聞社の記者。経済部、長野支局、証券部、国際部を経て、ブラジルとメキシコに計 9 年間駐在。24 年 4 月より政策報道ユニット経済・社会保障グループに在籍する。

● 熱帯雨林の保護のために「国際警察協力センター」を設置

アマゾン川とその流域に広がる熱帯雨林はブラジルを象徴する風景だ。アマゾン川の流域面積は約 700 万平方キロメートルで、世界中の河川の総流量の約 2 割を占めている。流域の熱帯雨林は南米大陸の 9 カ国・地域に広がる。そのうち最大の国がブラジルで（＊流域）面積全体の 63%を占める。

ブラジルが「法定アマゾン」として定めている行政区画の面積は 522 万平方キロメートルで、国土面積の 61%にも及んでいる。こうした数字を並べてみると、「ブラジルはアマゾン」と言い換えても、それほど極端な言い方ではないと思える。

世界中で伝えられている気候変動の一端はアマゾンでも見られる。2023 年 10 月にはマナウスの河川港の水位が 13.59 メートルと、1902 年に観測が始まってから、最も低い水準となった。23 年 7～9 月の降水量が 1980 年以降で最も少なかった影響だった。

アマゾンの熱帯雨林は大量の温暖化ガスを吸収し、酸素を生み出す役割を果たしてき

たが、その森林でも二酸化炭素（CO₂）の吸収、貯蔵量が落ち込んでいる。21 年 4 月に英科学誌『ネイチャー・クライメート・チェンジ』が掲載した欧米の大学の研究共同チームによる論文では、10 ～ 19 年にブラジルのアマゾン熱帯雨林で二酸化炭素の吸収量が 139 億トンだった一方で排出量は 166 億トンと、排出量が上回ったことを示している。

ブラジル国立宇宙研究所（INPE）によると、21 年 7 月までの 1 年間の熱帯雨林アマゾンの消失面積は推定 1 万 3235 平方キロメートルだった。温度上昇による森林火災や農牧地開発のための違法伐採が増加の背景だ。（※ 19 年 1 月から 22 年 12 月まで大統領であった）ジャイル・ボルソナロは森林の開発による経済振興を擁護しており、環境保護には消極的な姿勢だった。

しかし、（※ 23 年 1 月に発足した）ルイス・イナシオ・ルラ・ダシルバ政権下では、違法伐採や森林火災の監視強化が進み、成果はほどなく出始めた。INPE がまとめているブラジル国内のアマゾン熱帯雨林の消失面積は、22 年 8 月からの 1 年間で 9001 平方キロメートルと前年度に比べて 22%減った。

ルラ大統領は環境問題やアマゾンとどのように向き合っているのだろうか。象徴的な演説が 23 年 6 月にあった。場所はパリでエッフェル塔の前だった。「（先進国は）地球に対する歴史的な債務を返済しなければならない」と述べた。そして「アマゾンはブラジル主権の領土ではあるが、同時に全人類のものでもある。だからこそ、我々は森林保全のためにあらゆる努力を払う」と続けた。

ブラジルは環境分野の国際会議で影響力を行使してきた歴史がある。1992 年のリオデジャネイロでの国連環境開発会議（地球サミット）では国連気候変動枠組み条約が採択された。この条約に基づいて 95 年から国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP）が毎年開催されることになった。

20 年後の 2012 年 6 月には同じリオデジャネイロで国連持続可能な開発会議（リオ＋20）が開かれた。このリオ＋20 では「持続可能な開発目標（SDGs）」を策定することで合意した。SDGs は先進国も含む共通の目標として、いまでも重要な役割を果たしている。

ブラジルは 23 年 8 月には、南米の熱帯雨林アマゾンの周辺国首脳が集うアマゾン協力条約機構（ACTO）首脳会議を北部ベレンで開いた。09 年以来、14 年ぶりの開催となった。ACTO にはブラジルに加えてボリビア、コロンビア、エクアドル、ガイアナ、ペルー、スリナム、ベネズエラが名を連ねる。共同声明では、09 年の COP15 で先進国が約束した年 1000 億ドルの途上国支援について「約束の履行を求める」と強調した。

ACTO 各国首脳は、違法な森林伐採や鉱物採掘を取り締まる国際警察組織の設置で合意した。「国際警察協力センター」と名づけ、ブラジル北部マナウスに設ける。情報交換に加えて捜査、訓練などを共同化する。国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）のアマゾン地域版に相当する組織も設けて、アマゾン地域の気候変動の実態を共同で調査して報告書をまとめていく。メンバーには各国の科学者や先住民なども加わる。

さらにブラジルは 25 年 11 月に予定する COP30 を北部パラ州の州都ベレンで開く。ベレンはアマゾン川の河口に広がる大都市だ。アマゾン地域での COP 開催で、ブラジルは世界に対して環境重視の姿勢をアピールする狙いがある。

●ブラジル、メキシコ、コロンビアで 1 億人が利用するネット銀行ヌーバンク

ブラジルで急速に聞く機会が増えた言葉がある。PIX（ピックス）だ。銀行口座間の送金を、素早く可能にする決済システムで、24 時間 365 日、夜間や休日でもその場で送金完了する。日本の「PayPay」「メルペイ」のようなシステムと考えてもらいたい。

ブラジル中央銀行が PIX を始めたのは 2020 年 11 月 16 日だ。ほぼ 1 年後の 21 年 12 月時点の個人利用者数は 1 億 979 万人、法人の利用は 854 万社まで増えていた。その後も順調に増加して 24 年 6 月時点では 1 億 5680 万人、1652 万社だ。利用者数は全人口 2 億 1400 万人のうち、約 7 割に達している。成人で利用していない人はほぼいない状況だ。

なぜこのように活用が急速に広がっているのか。理由は便利だからにつきる。利用者は携帯電話や電子メールアドレスなどの中から「PIX キー」を選んで登録し、自らの口座とひもづけるだけで登録は終わる。PIX に専用のアプリは必要なく、各自が持つ金融機関のアプリを通じて送金を実行する。「PIX キー」から相手を探し、送金先を設定する仕組みだ。相手の口座情報も必要ない。また、個人で PIX を使う場合には手数料がかからない。

中銀としては「金融包摂につながる」（中銀のロベルト・カンボス・ネット総裁）の大きな利点だ。ブラジルでは銀行の口座開設には多くの書類が必要で時間もかかる。低所得者層や非公式に就労する人を中心に銀行口座すら持っていない人も多い。銀行ほどは審査が厳格でないフィンテック企業の口座を対象にすれば、PIX を使える層は広がる。

ブラジルではフィンテック分野で新興企業が活躍している。代表的な存在が 13 年創業のネット銀行であるヌーバンク。スマートフォンのみで口座開設やカード発効が完結する利便さが売りといえる。24 年 5 月には利用者数が 1 億人を越えたと発表した。発祥地のブラジルで 9200 万人、メキシコで 700 万人、コロンビアで 100 万人の顧客がいる。

創業者は南米コロンビア出身のダビド・ベレス最高経営責任者（CEO）だ。米大手ベンチャーキャピタル（VC）のセコイア・キャピタルで中南米投資を担当していた際、ブラジルで銀行口座がなかなか開設できなかった経験から、起業を思い立った。

ブラジルでは 20 年時点でも、国営と民間の大手 5 行が貸出残高と預金残高の 7 割強を占める、寡占的な市場だ。これまでの銀行は口座の維持手数料やクレジットカードの高額な年会費を取っていたが、ヌーバンクは無料にした。これによって初めて金融にアクセスが可能になった市民は多い。ヌーバンクはいまはクレジットカードに加えて、投資、個人向け無担保融資、保険、証券にサービスの範囲を広げている。

ヌーバンクによると、デジタルの仕組みを活用することで、23 年には顧客にとって 110 億ドルの手数料削減につながったという。過去 7 年間で店舗での待ち時間を 4 億 4000 万時間削減した計算になるとの試算も示している。

ヌーバンクの持ち株会社であるヌーホールディングスは 21 年 12 月にニューヨーク証券取引所に新規株式公開（IPO）した。初値は 11.25 ドルと、公開価格（9 ドル）を 25% 上回った。初値での時価総額は約 520 億ドル。地元紙エスタド・ジ・サンパウロによると、上場ブラジル企業では 3 番目の規模となった。国営石油会社ペトロbras、資源大手ヴァーレに次ぐ規模で、一気にブラジルを代表する企業として金融市場に登場した。

上場時の調達額は 26 億ドル。調達資金を用いてメキシコやコロンビアでの事業を拡大している。同社には著名投資家ウォーレン・バフェットが率いる米投資会社バークシャー・ハザウェイやセコイア・キャピタル、中国ネットサービスの騰訊控股というそうそうたる顔ぶれが出資しており、今後の成長への期待も高い。

※「＊」がついた注および補足はダイジェスト作成者によるもの

コメント：ブラジルへ渡った日系移民の長い歴史もあり、ブラジルと日本の関係は浅くない。ヤクルトや味の素、ミズノといった社名も現地に浸透し、何より日本人、日本文化への親近感があるようだ。だが著者は、現在のブラジルにとって日本の優先度が低下していることを指摘している。日系企業の国・地域別の海外拠点数でブラジルは 19 位にとどまる。貿易相手としても中国に比べるとはるかに小さいという。そんな中、ルラ大統領は 25 年に企業関係者らを同行させ訪日する意向を示している。ブラジルとの関係強化を図る上では格好の機会になるだろう。